

第65期 中間株主通信

2022年2月1日～2022年7月31日



Alpen TOKYO



株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長 高橋 貴志

■上半期を振り返って

当第2四半期連結累計期間(2022年2月1日～2022年7月31日)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が徐々に緩和される中で、持ち直しの動きがみられたものの、ウクライナ情勢の長期化や円安の影響に伴い資源価格が高騰する等、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当ディスプレイ業界の事業環境につきましても、個人消費、企業の販促投資は持ち直しの動きがみられたこと等により、需要の回復の兆しが徐々にみえてきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束時期は未だ見通せず、先行きは不透明な状況が続いております。また、ウクライナ情勢の長期化や円安の影響に伴う資材価格の高騰によるコスト上昇リスクについても、注視していく必要があります。

このような状況のもと当社グループは、従業員並びに当社関係者の安全確保を最優先に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮した上で、中期経営計画(2022年1月期～2024年1月期)に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による環境変化に柔軟に対応しながら、早期の業績回復の実現と更なる企業価値の向上を目標に事業活動を展開してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は316億6百万円(前年同四半期比17.8%増)となり、営業利益は6億47百万円(前年同四半期比762.6%増)、経常利益は7億19百万円(前年同四半期比246.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億60百万円(前年同四半期比910.4%増)となりました。

また、当第2四半期連結累計期間の受注高は314億92百万円(前年同四半期比5.3%増)となりました。

■通期の見通し

今後の見通しにつきましては、経済活動の制限が緩和される中、各種政策の効果もあり、緩やかな景気回復が期待されます。

当社グループを取り巻く環境につきましても、個人消費、企業の販促投資は持ち直しの動きがみられたこと等により、需要の回復の兆しが徐々にみえてきました。

なお、2023年1月期通期の連結業績予想につきましては、売上高および利益面の進捗は予想を若干下回っておりますが、概ね堅調に推移しているため、前回の予想から変更はありません。

(百万円)

売上高	営業利益	連結営業利益率(%)	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	連結ROE(%)
2022年1月期 計画					
62,714	2,024	3.2	2,209	1,434	4.9
2023年1月期 計画					
70,000	2,500	3.6	2,690	1,800	6.0
2024年1月期 計画					
80,000	4,400	5.5	4,540	3,050	9.8

※上記予想は現在において入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、新型コロナウイルス感染症拡大の収束時期の変動のような潜在的な不確実性が含まれております。実際の業績は、今後のさまざまな要因により予想値とは異なる可能性があります。※2023年1月期より収益認識に関する会計基準が適用されます。

■配当金について

当期の中間配当金は、1株当たり15円とさせていただきます。また、期末配当金は、1株当たり15円を予定しており、年間配当金は、1株当たり30円となる見込みです。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2022年10月

商業その他施設事業

連結売上高 **164億20**百万円 (前年同四半期比 37.9%増)

セグメント損失 **23**百万円 (前年同四半期は4億89百万円のセグメント損失)

商業その他施設事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の制限が緩和されたことにより需要は回復し、主にアミューズメント施設や駅ビル、空港関連施設等の新改装案件が増加したこと等から、売上高は前年同四半期を上回り、セグメント損失は前年同四半期に比べ減少しました。



高宮庭園茶寮

チェーンストア事業

連結売上高 **95億65**百万円 (前年同四半期比 2.8%増)

セグメント利益 **4億3**百万円 (前年同四半期比 67.3%増)

チェーンストア事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の制限が緩和されたことにより需要は回復し、主に飲食店分野およびその他専門店分野の新改装案件が増加したこと等により、売上高、セグメント利益ともに前年同四半期を上回りました。



アイズ&トルペ 福岡天神西通り店

文化施設事業

連結売上高 **54億45**百万円 (前年同四半期比 0.3%減)

セグメント利益 **2億27**百万円 (前年同四半期比 25.5%減)

文化施設事業においては、売上高は前年同四半期並みとなったものの、セグメント利益は、収益性の高い案件が減少したこと等により、前年同四半期を下回りました。



品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」

その他

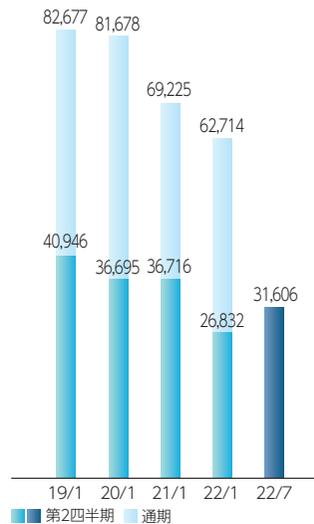
連結売上高 **1億75**百万円 (前年同四半期比 10.3%増)

セグメント利益 **40**百万円 (前年同四半期比 9.2%増)

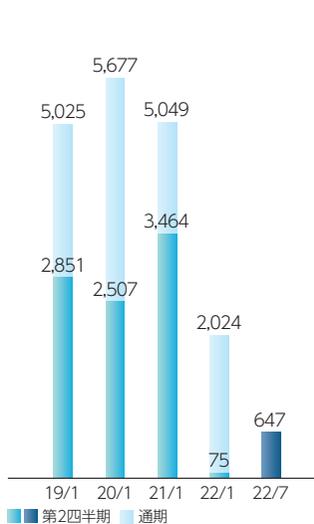
その他においては、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の制限が緩和されたことにより、ディスプレイ業以外のインターネット情報サービス等の需要は回復し、売上高、セグメント利益ともに前年同四半期を上回りました。

連結財務ハイライト

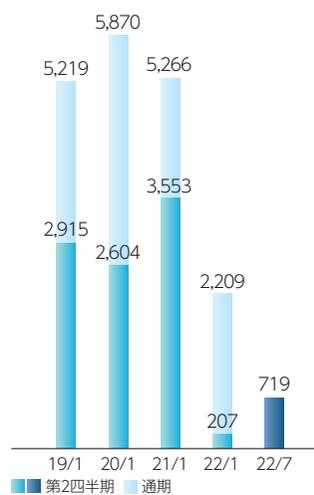
売上高 (単位:百万円)



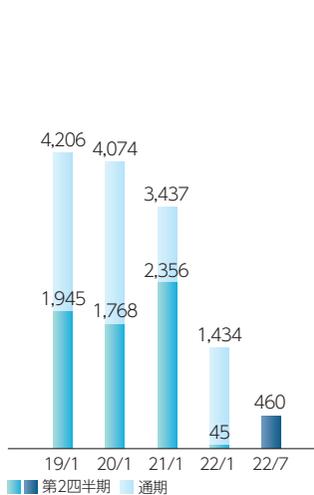
営業利益 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (単位:百万円)



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末	当第2四半期末
	2022年1月31日現在	2022年7月31日現在
流動資産	38,072	35,466
固定資産	7,171	6,996
流動負債	15,117	11,499
固定負債	1,067	1,141
純資産	29,059	29,822
総資産	45,244	42,462

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期	当第2四半期
	自2021年2月1日 至2021年7月31日	自2022年2月1日 至2022年7月31日
売上高	26,832	31,606
売上原価	22,196	26,230
売上総利益	4,636	5,375
営業利益	75	647
経常利益	207	719
親会社株主に帰属する四半期純利益	45	460

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期	当第2四半期
	自2021年2月1日 至2021年7月31日	自2022年2月1日 至2022年7月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	893	989
投資活動によるキャッシュ・フロー	647	△179
財務活動によるキャッシュ・フロー	△825	△634
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,696	16,524

詳細な財務情報は、当社ウェブサイトIR情報をご覧ください。

アドレスはこちら▼

<https://www.tanseisha.co.jp/ir/>

■【事業主】株式会社ポジティブドリームパーソンズ
 建築設計:株式会社環・設計工房 建築施工:九州建設株式会社 園地整備:株式会社都市造園
 【業務範囲】全体ディレクション、施設コンセプト企画、全体デザイン監修、デザイン・制作・施工(迎賓館・ミュージックホールの内装、外構サイン)
 ■【事業主】株式会社アインホールディングス【業務範囲】デザイン・設計、制作・施工
 ■【事業主】品川区【業務範囲】展示企画、展示デザイン・設計、展示制作・施工

スポーツの魅力を実際に体験できる旗艦店「Alpen TOKYO」



テント設営の実演などでリアル体験が可能



新国立競技場トラックと同じ素材を活用するなどの「リアルマテリアル」



廃棄予定の野球バットを活用するなどの「アップサイクル」

リアル店舗ならではの体験が得られる空間づくり

2022年4月、スポーツ用品販売のアルペン様の「Alpen TOKYO」が、東京・新宿にオープンしました。地上8階・地下2階、延べ床面積約1万2,300㎡のアルペングループ史上最大規模の旗艦店で、当社は地下2～地上5階のスポーツ用品フロア（スポーツデポ）およびアウトドア用品フロア（アルペンアウトドアーズ）の内装造作、電気設備、木製家具什器、サインなどの設計施工を担当しました。

アルペン様とのおつきあいは2010年、愛媛県松山と山梨県甲府の2店舗の新装工事を落札したことに始まります。その後、新装店舗のある柱の石タイルが剥がれる事態が発生し、連日営業終了後に、安全確保のための全柱の検査・補修を行ったことがありました。ご迷惑をおかけすることとなりましたが、真摯に対応する中で信頼を得ることができました。2018年に愛知県名古屋のアウトドア業態の新店舗、2019年に千葉県柏の同業態の旗艦店で、設計施工の特命でご用命いただきました。これらの実績が高く評価され、本プロジェクトにつながりました。

今回のアルペン様からのご要望は、これまでにない圧倒的な品ぞろえの都内最大の旗艦店として、「ここでしか得ることができないサービスを体験する空間づくり」でした。

そこで各フロアの商品に合わせ、新宿のストリートバスケット

のコートや、野球場のロッカールーム、陸上競技場のランニングコースなど、具体的なスポーツシーンを想起させる空間づくりを行いました。また、豊富な商品をより魅力的に見せるディスプレイなど、効果的なビジュアルマーチャンダイジングの手法を駆使しました。その上で、来店者様へのスムーズなサービスやコミュニケーションを促すレイアウト、バックストーリーが語れる素材やディスプレイなどを空間の各所にちりばめました。

売り場では実際の競技場と同じ素材で臨場感を演出

注力したデザインのポイントは、本物素材を活かす「リアルマテリアル」と、廃棄されるはずのスポーツ用品を再利用した「アップサイクル」です。

「リアルマテリアル」では、実際の競技場などで使用される素材を採用しました。テニス用品売り場には、有明テニスの森公園テニスコートと同じハードコートの床材を使用。ランニング用品売り場には、新国立競技場と同じイタリア製トラック素材を採用。サッカー用品売り場には、人工芝や各国の有名スタジアムで採用されているベンチを用いました。こうした本物の雰囲気の中で試着・試用することで、実際の競技場での踏み心地やグリップ感などを体験できます。また、アウトドアフロアでもスタッフがテント設営を実演でき

るなど、リアルな体験にこだわりました。

「アップサイクル」については、アルペン様からご支給いただいた使用済み、製造不良による廃棄予定品の野球バットやグローブの革端材、卓球やテニスのラケット、ボールなどを再利用し、関係者みなでアイデアやネットワークを活かし合いながら、空間ディスプレイに昇華させました。

また、環境への貢献という面では、廃番品となった床材をバックルームに活用し、これによりCO₂排出量を1.75t抑制することができました。当社が新規事業として立ちあげた、建材や装飾材等の廃番品ECサイト「フォーアース (4earth)」と連携し、当社ならではの提案を店づくりに反映させることができました。

厳しい条件下でチーム一体となって課題を克服

最大の課題は、計画からオープンまでのスピーディーな対応でした。2021年8月に設計に着手後、翌年4月のオープンという、通常の半分程度のタイトなスケジュールの中で、全員がチーム一体となって士気を高くもち、プロジェクトを進めていきました。

大規模物件であるため、多くの関係者との調整が求められる中、新型コロナウイルス感染症や半導体不足、ウッドショック等の懸念に対応する事態も発生。こうした厳しい条件下で、アルペン様のご要望であった「リアル店舗ならではの価値の提供」と、「スポーツのワクワク感を体験・体感していただける店舗」を作るために、当社が有するサービス・技術・商材を広く活用することで、無事にオープンを迎え、お客さまに喜んでいただくことができました。

コロナ禍もあってEC取引が拡大する中、リアル店舗に求められる価値、期待するものが見直されています。「ここを動かす空間づくり」を生業とする当社の力で、これからも多くのお客さまが期待する、魅力的な売り場づくりに貢献してまいります。

プロジェクトに携わったメンバー

営業
田中康一営業
石塚健太制作
飯島孝次制作
飯村達也デザイン
大槻賢造

インバウンド向け新サービス「THE TOKYO PASS」公式ウェブサイト販売開始しました

当社と、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人東京観光財団、株式会社JTBの4者の事業協定による共同プロジェクトとして推進しているTHE TOKYO PASS -Culture プロジェクトは、新サービス「THE TOKYO PASS -Culture」の販売を9月5日より開始しました。

本サービスは、都内の国公立・私立の39の文化施設へ入場できる周遊パスで、都内の全ての地下鉄が乗り放題になる「Tokyo Subway Ticket」をセットで購入することも可能です。専用アプリにより、キャッシュレスかつタッチレスで東京の文化施設を快適に周遊できます。丹青社はサービス全般プロデュース、運営事務局として各ステークホルダーと連携し、文化観光の活性化に貢献してまいります。



文化施設やその周辺におけるインバウンドに寄り添った視点での魅力的なコンテンツ開発等、サービスの向上を目指しています。

「iF DESIGN AWARD 2022」を受賞しました



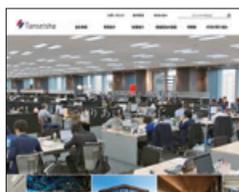
当社が空間づくりをお手伝いしました「Kadokawa Culture Museum (角川武蔵野ミュージアム)」『SWEETS BANK』『Watch & Jewellery Square

WAKO (和光ウォッチ & ジュエリースクエア)』が、「iF DESIGN AWARD 2022」を受賞しました。iFデザインアワードは、68年にわたり国際的に権威のあるデザインアワードのひとつとして、またiFロゴは優れたデザインの証として広く認知されています。

今後も、空間をご利用いただく皆様の視点を忘れず、お客さまの事業への貢献ができるよう、豊かな空間づくりへの取り組みを続けてまいります。

ウェブサイトのご案内

積極的に情報開示を行っております。また、最新の統合報告書は2022年8月に公開しておりますので、当社をよりご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。



<https://www.tanseisha.co.jp>

会社概要 (2022年7月31日現在)

商号	株式会社丹青社
設立	1949年10月14日
資本金	40億2,675万657円
従業員数	1,045名(連結1,421名)

役員 (2022年7月31日現在)

代表取締役社長	高橋 貴志	取締役 常勤監査等委員	河原 秀司
取締役専務	小林 統	社外取締役 監査等委員	新島由未子
取締役専務	徳増 照彦	社外取締役 監査等委員	吉井 清信
取締役常務	戸高 久幸	社外取締役 監査等委員	楨原耕太郎
取締役	中島 実		
取締役	篠原 幾徳		
取締役	森永 倫夫		
社外取締役	板谷 敏正		

株式の状況 (2022年7月31日現在)

株式の総数	
発行可能株式総数	187,200,000株
発行済株式総数	48,424,071株
株主数	12,866名
大株主	

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,787千株	16.21%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,856	5.94
丹青社取引先持株会	2,301	4.79
第一生命保険株式会社	1,907	3.97
株式会社三井住友銀行	1,500	3.12
株式会社三菱UFJ銀行	1,482	3.08
日本生命保険相互会社	1,446	3.01
丹青社従業員持株会	1,446	3.01
GOVERNMENT OF NORWAY	1,419	2.95
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,362	2.83

※ 持株比率は、自己株式(317,600株)を除いて算出しております。

株主メモ

事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
配当金受領株主確定日	期末配当1月31日/中間配当7月31日
定時株主総会	毎年4月
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel.0120-232-711(通話料無料)
同郵送先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所 プライム市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.tanseisha.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 9743

いいかぶ

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2か月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(QUOカードPay500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
MAIL: info@e-kabunushi.com

撮影:株式会社フォトクラフト社、PIPS、ツキジ D&R、株式会社 ナカサンドパートナーズ

ここを動かす空間をつくりあげるために。

株式会社丹青社

〒108-8220 東京都港区港南一丁目2番70号
Tel. 03(6455)8100(代表)
Fax. 03(6455)8220(代表)

